

目指した地域塾の取組
自彊学会人づくり塾



Profile

昭和48年11月鹿児島市生まれ
【父:宮之城出身 母:川内出身】
むらさき幼稚園・西伊敷小・緑丘中・
鹿児島県立鶴丸高卒
平成8年 立教大学社会学部観光学科卒
平成8年 KTS鹿児島テレビ報道記者
(~10年10月)
平成15年 鹿児島県議会議員初当選
平成19年 県議会議員選挙次点
(397票差)
家族/妻と一男一女(あけぼの幼稚園)
趣味/歴史の本を読む
/自宅でバーベキュー
愛読書/致知/随筆がこしま/系図の本

<キリトリ線>

料金受取人払郵便



差出有効期限
平成23年
4月30日まで

8908790
948

鹿児島市西伊敷2-22-9

藤崎たけし
後援会事務局 行



ご協力いただける項目があれば✓をお願いします。

- ボランティアスタッフとして手伝います。
- 自宅や会社などにポスターを掲示します。
- ミニ集会を開催できます。
- カンパします。振込用紙を送付してください。
- 後援会入会申込書を送付してください。
- その他()

●メッセージ欄(ご意見・ご要望などを自由にご記入下さい)

広げよう応援団

伊敷の地から鹿児島市・全域に!!



藤崎たけし後援会 喜久
〒890-0002
鹿児島市西伊敷2-22-9
TEL 099-246-1190 FAX 099-246-1194
<http://fujisaki-takeshi.com/>
[mail://info@fujisaki-takeshi.com](mailto://info@fujisaki-takeshi.com)

鹿児島県には可能性がある!



藤崎たけし



鹿児島の伝統を活かし
未来を創造する県政へ

後援会のしおり

県政課題 1 競争社会に備えた地域戦略

九州内の地域間競争のなかで、新幹線の全線開通は鹿児島が勝ち抜く絶好の機会です。

鹿児島にある潜在的な資源をさらに掘り起こし、魅力を高め、経済活性化地域戦略を推進します。

県政課題 2 鹿児島らしい教育再生

- 親・教師・子どもも三位一体になって、日新公いろは歌など鹿児島に伝わる教えなどを活用する機会を増やし、日本と鹿児島を好きになる心の教育を推進します。
- 我が国固有の文化であり、相手を尊重して練習や試合ができるようにすることを重視する「武道」の円滑な導入とスポーツ振興を図ります。
- 鹿児島県に伝わる伝統や文化を、県外に売り込むため、教育のコンベンションである「藩校サミット」の鹿児島開催を推進し、鹿児島の教育と観光振興の一助を担います。



◀ 認定かごしま地域塾である自彊(じきょう)学会の活動に参加

県政課題 3 持続可能な地域社会づくり

- 持続可能な地域社会の活動を維持するため、専門家集団であるNPO法人を育成し、共生・協働の仕組みを全県に広げます。商店街・町内会などの組織とNPO法人との協力体制を推進します。
- 地域の魅力や特徴を再認識して、「地域の誇り」を地域振興や子供達の心の故郷づくりに活かすための事業を推進します。
- 1人暮らし高齢者の見守りや青パトなど安心安全な地域社会づくりのため、「元氣な退職世代の知恵と行動力」と「若者のITスキルと行動力」とを活用して、町内会をはじめとする地域活動への一層参加をしやすい仕組みをつくり、地域力を高めます。

県政課題 4 誇りの持てる農林水産業をさらに

安心安全を提供できる農林水産業、そして後継者が夢や希望・誇りを持てる成長産業としての安定した農林水産業のための仕組みづくりを推進します。

県政課題 5 鹿児島の宣伝力強化

- ITを活用した鹿児島県からの情報発信を経済活性化の起爆剤にするため、「鹿児島県メディア・広報戦略」の策定を推進します。
- 鹿児島県内の魅力を伝えるため、企業・団体等の情報発信力を継続的・効果的に高めていくため、鹿児島県としてホームページ大賞を創設します。

県政課題 6 医療福祉・子育て支援の充実を

- こども総合療育センターの機能充実を図ります。
- 高齢者を敬い、自立と共生の精神で、誰もが安心して暮らせる社会保障制度を推進します。地方分権の議論を踏まえ、国と地方の役割の分担など、地方の立場を国に訴えます。
- 待機児童の解消など保育園に関わる諸課題と、教育機能の充実など幼稚園に関わる諸課題の双方を解決できる国の施策の実施のため、地方の立場を主張します。
- 小児科・産婦人科への「飛び込み受診」から「かかりつけ受診」を推進し、患者と医療機関の信頼関係を深め、安心して出産・子育てできる環境を整えます。

県政課題 7 県庁組織のさらなる活性化を

県職員に蓄積された情報やノウハウを、県政運営に最大限に活かすため、業務執行に品質管理ISO9001の概念を導入し、県庁組織の活性化を図ります。

県政課題 8 離島振興と国防の推進

鹿児島は海上に国境を有する県として、国防と離島振興のモデルを作ります。

推薦します

たけしさんの企画力・情報網そして行動力は、これから30年間の鹿児島を支え、地域の活性化に必ず役に立ちます。みんなで応援しましょう。

サッカーチームFC鹿児島
オフィシャルカフェCOLORS 東 理香



幼稚園の親父の会で一緒にいます。お互いに薩摩の歴史に興味があり、いつも熱く語り合います。地域活性・教育再生には藤崎の手が必要です!!チェスト行け!!たけし!!

幕末酒場薩摩食堂南洲庵 有馬 敏郎



<キリトリ線>

藤崎たけし後援会入会申込書

- ご紹介者(あなた様のお名前をお書き下さい。)

(ふりがな) TEL
お名前

ご住所 〒

E-mail

- 鹿児島市・郡にお住まいの方をご紹介下さい。(吉田・郡山・松元・桜島・喜入・三島村・十島村も含まれます。)

(フリガナ) TEL
お名前
住所 関係

(フリガナ) TEL
お名前
住所 関係

(フリガナ) TEL
お名前
住所 関係

(フリガナ) TEL
お名前
住所 関係

(フリガナ) TEL
お名前
住所 関係

十三会 3月例会資料

作成：藤崎 剛

1. 落選と再建の4年間

居酒屋でバイト 今は 先輩の会社のお手伝い

2. 地域再発見

地域に住む年代の近い仲間と地域活動に汗を流す

3. 県政の課題

県議会議員の人材供給源

政務調査費の使途

三大テーマと詳細な政策集

これから必要な資質は、「資料を読みぬく力」「決算・監査できる力」

県庁・県議会のHPは資料の宝庫

現職1期の実績・・・今頃実現したものも。例：「横断検索」

4. さあ、選挙だ！

無党派世代

かごしま参院選 '07

▶1

特定の政党を支持しない無党派層。自民党の支持を上回り、最大政党ともいわれる。二十九日投票の参院選でも当落を左右する存在だ。特に比率が高い二、三十代。無党派世代は今何を思い、政治をどんな目で見ているのか。県都鹿児島市で探った。(社会部・豊島浩一)

四月八日深夜。藤崎剛(三三)はぼうぜん自失の状。二十四人が立候補した少態だった。「どうして、数激戦区。少しずつ開くこんなことになったの。票数は下位が続いたが、か」

鹿児島県議選、鹿児島市・郡区。選挙事務所近くの自宅で開票速報を見

落選

見えぬ票、確かな威力

「危機感はなかった」。無所属だった前回。二四年前の前は堂々二位十代の若さと合わせ、既で初当選。最下位当選者に三千票以上の差をつけた自信からだ。

しかし票は伸びなかった。次々とライバルに当確「がつき、各陣営でバンザイが咲き乱れた。最後の議席を競り合う展開。当確は別の候補についた。二位から二十位への急落。約一万二千八百票から約八千八百票へ、得票は37%落ち込んだ。今回は四年前と明確な変化があった。政党公認の有無だ。

無所属だった前回。二四年前の前は堂々二位十代の若さと合わせ、既成政党には実現できない改革を訴えた。選挙戦では、毎日必ず天文館を回った。地元や支援組織を固めつつ、同世代を中心に無党派層を意識した戦略は奏功。自民公認の二代候補が落選したことからも、自身が「受け皿」になったとみている。

当選から二年が過ぎた二〇〇五年八月、同党県議団に入る。各方面から入る情報量が格段に増し、政策実現のスピードアップを図れるというのが



アルバイト先の居酒屋で接客をする藤崎剛元県議(中央) =鹿児島市

が主な理由。自身のプロダクトやミニ集会で意義を訴えた。今回の選挙では、「無

党派の票は数千票落とす」との覚悟もあった。その分は、四年の議員活動で培った人脈、企業・団体の支援で補えると読んでいた。いわば「見えぬ票」から「見える票」への転換。選挙戦では、天文館に特化せず、選挙区全体を幅広く回ることが優先した。

結果的には、政党の看板を背負った反動をもちに受けた格好となった。「前回の上位当選で緩みが出た」。基礎票を固め切れなかった思いの一方、政党アレルギーのある無党派層の確かな存在と威力も痛感した。

宮崎県知事選など各地で無党派旋風が吹き荒れる。〇五年の郵政解散総選挙も、無党派層の支持を得たことが、自民圧勝の勝因とされた。参院選でも、各党は対策に躍起だ。

藤崎は、支持者への敗戦のおわびのあいさつ回りが一段落した六月、家計を支えるためアルバイトを始めた。家庭教師と掛け持ちする形で、夜は天文館の居酒屋で働く。不特定多数が集まる場所を選んだのは、無党派の存在と無縁ではない。(敬称略)

高齢化の団地盛り上げたい

商店街マップ製作



便利帳を作った実行委員会のメンバー

鹿兒島市西伊敷5丁目

西伊敷通り会

鹿兒島市の西伊敷商店街通り会（五十六会員）は周辺地図や生活情報などを載せた「伊敷団地便利帳」を作製した。通り会の若手メンバーが少子高齢化が進む団地を盛り上げたいと実行委員会を立ち上げ、企画からレイアウトまで手がけた。約八千世帯に配布。「商店街の魅力を再発見できた」と地域住民に好評だ。

西伊敷はここ数年、人口レットになり、メンバーが減り高齢化率も上昇傾向。募った広告が並ぶ。大手スーパーが撤退するなど商店街の存続に危機感を感じさせた二十〜四十代のメンバー十五人が「何かできることはないか」と実行委を一年前に結成、仕事が終わった夜間を中心に準備を進めてきた。

冊子はA4サイズの二十四ページ。右にめくると便利帳、左にめくると六日に伊敷中央公園グラウンド（西伊敷三丁目）で開く「第十五回銀河口ロード祭り」のパンフ

「エコドライブのすすめ」、応急処置法、悪徳商法の被

レットになり、メンバーが募った広告が並ぶ。マップには会員店に加え病院や福祉施設、ことも110番の家、バス停、危険箇所を表示。地図を作製した幼稚園長、井手聡さん（四〇）は「地域の人から『こんな店が地元にあったなんて知らなかった』と声をかけられることもありうれし」と話す。

このほか、ガソリンスタンド店主がアドバイスする「エコドライブのすすめ」、

あすの祭りもPR

製作費や配布委託料など総事業費は約五十万円。広告料と、市企業振興課の「頑張る商店街支援事業」補助金でまかなった。

通り会の長野満会長（七〇）は「若い人がいろいろ企画してくれて心強い」。同事務局長の北渡瀬幸吾さん（四〇）は「地元商店街を後世まで残すため、会員が結束して頑張りたい」と話した。

銀河口ロード祭りは六日午後三〜九時。ヒーローショーやフリーマーケット、歌手の木下航志さんのライブ、抽選会などがある。



西伊敷商店街通り会が作った「伊敷団地便利帳」



贈られた記念誌を手にする児童代表ら119日、鹿児島市の伊敷小学校

2007

桂庵禅師 後世に

没後500年で記念誌

伊敷仮屋町内会など

鹿児島市の伊敷仮屋町内会などは、2008年に行った桂庵禅師没後五百年祭の記念誌を発刊した。橋口春生会長(85)らは9日、伊敷小学校を訪れ、「地元の偉人を調べる際に活用して」と記念誌を贈った。

桂庵玄樹禅師は鹿児島から朱子学を広め郷土に尽くした人物。同校校歌が「桂庵禅師のあとこころ」で始まり、校内に肖像画を飾るなど児童にもなじみ深い。代表として記念誌を受け取った6年生の津野智貴君(12)は「記念誌を読んで1年生にも伝えたい」、同じく谷元柚月さん(11)は「禅師は地域の人。もっと考えを深めたい」と話した。

編集委員の藤崎剛さん(35)は「禅師を知る人に声をかけて取りまとめたい」と話した。希望者には実費で分ける。15日午後6時半から町内にある桂庵公園の墓前で法要がある。橋口さん11099(220)7289。

西伊敷の魅力探る

商店街通り会 まち歩き意見交換

高齢化が進む伊敷団地の活性化策に外部の目を生かそうと、西伊敷商店街通り会は十四日、県内各地の地域づくりリーダーらでつくる「KAGOSHIMA熱闘会議」のメンバーを招き、西伊敷まち歩きを開いた。藤崎剛さん(35)が同会議のメンバーでもあることから初めて企画した。参加した二十五人は、西伊敷三丁目を出発。商店主の話聞いた後、伊敷中央公園を見学したりしながら同七



商店主の話聞くまち歩きの参加者
鹿児島市西伊敷4丁目

一丁目までの約一・五キロを歩き、魅力を探った。意見交換会では「菓子店の多さを生かさないか」「積極的にイベントを開いたら通行人通りも増えるはず」「高速のインターチェ

ンジが近いのは大きな魅力」などの意見が出た。藤崎さんは「伊敷団地の良さを見直すきっかけになった。いろいろな意見を参考にしながら、まちづくりを進めたい」と話した。

薩摩義士の功績 後世に

平田公園で慰霊祭

江戸時代の木曾川治水工事を成し遂げた薩摩義士の偉業をたたえる、薩摩義士顕徳慰霊祭が二十五日、鹿児島市平之町の平田公園であった。鹿児島と岐阜両県から約六百人の関係者が参列した。二十四日には両県の若者らによる初のフォーラムも開かれた。

二十五日は工事の中心となった総奉行平田鞆負の命日に当たり、鹿児島県薩摩義士顕彰会が、戦中戦後の一時期を除き、約九十年前から毎年慰霊祭を続けている。式では参加者が玉ぐしをささげ、東郷示現流と薬丸自願



前夜祭のフォーラムで意見を交わす参加者たち
24日夜、鹿児島市平之町の平田公園

岐阜の若者ら600人参列



慰霊祭で玉ぐしをささげる参列者
25日、鹿児島市平之町の平田公園

流の迫力ある演武や詩吟の奉納もあった。

岐阜県薩摩義士顕彰会の鬼頭善徳会長(六三)は「両県で姉妹県盟約が結ばれ約四十年。民間の交流が盛んになってきた。今後、も若い世代に義士の功績を伝えたい」。山下小六年の山田優花さん(一〇)は「緊張したけどしっかりと玉ぐしをささげられた。自分たちの住んでいる所から、偉い人ができたことはすごいと思う」と話していた。

慰霊祭に先立ち、二十四日夜に開かれたフォーラムでは、

岐阜県と鹿児島市の若者らが意見を交わした。大垣青年クラブの近藤史哲副会長(三三)は、紙芝居「薩摩義士のものがたり」を制作し小学校で上演する活動を報告。「子どもたちは熱心に聞いてくれる。これから先も多くの人に伝えたい」と話した。

鹿児島市で同じ紙芝居を上演している同市の鶴垣鹿維の松元直美会長は「鹿児島では薩摩義士を知らない人もいる。子供のうちに学ぶ機会をつくる必要だ」と提言した。

郷土再発見し、愛情持って

小学生に「伊敷」検定

まちづくり団体、来月実施

伊敷地域を知って、夏休みの自由研究に。鹿児島市の伊敷地域まちづくりワークショップは、地元を題材にした「子ども検定」を8月4日、伊敷公民館で開く。主に小学5・6年生向きで、7月22日には同館で事前勉強会を行う。地域を再発見してもらい、愛郷心につなげたい考え。テキスト代を含め検定料500円で、20日まで申し込み。勉強会は、保護者も参加できる。受講後の2週間で史跡巡りや現地見学など自主的に学習し、3択方式50問の検定を受ける。定員50人。全員に参加賞、8割以上の正解者に認定証を発行する。大人の検定は、秋に予定。勉強会を前に、テキストの校正作業も追い込みに入った。ワークショップ会員で検定マニアという安楽ミサ子さん(67)は「子どもに分かりやすく、大人も勉強になる本作りは、なかなか難しい。受ける方が楽」と苦笑い。「受検で育った所に誇りや愛着を持つのでは」と、みんな張り切っている」と話した。



伊敷地域子ども検定用のテキストを校正する会
員 鹿児島市伊敷支所

勉強会は、午前10時と午後1時半からのいずれかに参加。検定は午後1時半から1時

問、午後4時まで採点
・解説と上位5人の表彰式もある。問い合わせ
2111内線117、(7929)1634。

せは市伊敷支所地域振興係099(229) 藤崎剛さん090

住民有志が来春開設へ

緑ヶ丘に地域FM

鹿児島市緑ヶ丘町の有志らが、同市内では初となる住民主体のコミュニティーFM開局を目指し、準備を進めて

いる。地域の生活に根ざした情報発信を狙い、来年春の放送開始を目標に、11月には試験放送を予定している。

同町で理容店を営む勝矢政和さん(44)の呼びかけで、今年二月「FMさつま」が発足。八月までに特定非営利活動法人(NPO法人)化を計画している。「市南部に負けず北部も元気を出信」が目標。高齢者や障害



コミュニティーFM開局に向けて協議する緑ヶ丘町の有志
12日、鹿児島市緑ヶ丘町

防災、商店街の動き紹介

者ら情報弱者に目を向け、防災関連では警察と協力、商店街の動きなどもオンラインする予定。マスコミで取り上げられないような小さな話題も紹介していくという。

九州総合通信局への予備免許交付申請に向けた準備や資金繰りなど、今後の課題は山積している。勝矢さんは「情熱を持って開設にこぎつける。大隅や奄美のFM局とも連携し、鹿児島全体を盛り上げたい」と意気込む。

最初の試みとして、今月二十四日に同町のすみれ公園で開かれる「緑ヶ丘フリーマーケット」でミニFMを計画。半径百メートルの微弱電波での放送となるが、フリーマーケットの様子をライブで放送する。

ボランティアスタッフを募集中。勝矢さん090(1369)9765。電子メールinfo@fm-satsuna.com